「気づいたとき、それが始めるとき」

大東消防署　消防課通信指令室
消防司令補　大川　雅俊（平成２０年入職）

「小さなきっかけからの気づき」

私は、大東市や四條畷市で生まれた訳ではなく、幼い頃から消防士になることを目指していた訳でもありません。小さい頃から「将来は体を張って人の役に立つ仕事をしたい」と思っておりましたが、親族に警察官の叔父がいたことから、「人の役に立つ仕事」＝「警察官」しかないと思い込んでおり、大学卒業後、警察官の採用試験を受験しました。しかし、採用試験は一次試験で不合格となり、その後民間企業に就職しましたが結局１年程度で退職することになりました。この先どうしたらいいのか分からず不安な毎日を過ごしていたある時、大東市が発行している広報誌の中に「消防吏員採用募集」という記事を見つけました。消防士という存在はテレビや漫画でしか見たことがなかったのですが、頭の固かった私はこの時になってやっと、消防士という仕事は私が小さい頃からやりたかった「人の役に立つ仕事」なのではないかと気づき、自分が毎日を過ごしている大東市の人の役に立ちたいと当時の大東市消防本部を受験しました。

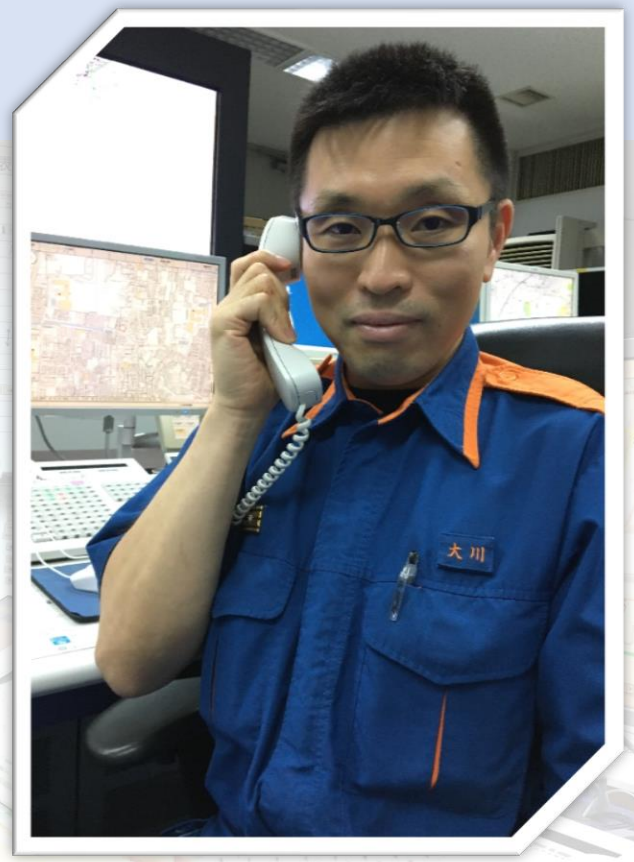
「救いの声を伝える」

私は現在、通信指令員として勤務しています。通信指令員は火災現場や救急現場に向かうのではなく、市民の方々からの１１９番通報を受けて災害発生場所を特定し、その災害に対して必要な部隊を選別して出動指令をかけることが仕事です。

また、命の危機に瀕した方の救急要請を受信した時は、救急車を向かわせるだけでなく、その方の命を救うために必要な行動をとってもらえるよう、通報してくださった方にお願いするという役割もあります。通信指令員は直接災害現場へ向かうことがないので目立たない存在ではありますが、助けを求める方々に対し最初に接することができ、「声」という手段で一番始めに救いの手を差し

伸べることができる仕事です。現場を見ることも触れることもできず、離れた場所から電話越しの「声」だけのやりとりだからこそ、その唯一のコミュニケーションツールである「声」に全身全霊の力を込め、様々な表現方法を用いて、人々を助けるのが通信指令員である私の使命だと思っています。特に救急現場では、１１９番通報者とその周囲の方々の協力を得ることが非常に重要となりますので、通信指令員の「声」は人の命を救うことに繋がる重要なものであると信じています。

「感・即・動　～感じたら、すぐ動こう！～」



　これから大東四條畷消防本部を受験しようと考えておられる皆さんへ。私は消防士を志した時期が少し遅かったですが、消防士になろうと心に決めた時から、消防士になるために必要だと感じたことは全て実行し採用試験に臨みました。一度は不合格となりましたが、不合格通知を受け取ったその日から、１年後の採用試験を見据えてすぐにやるべきことを考え行動に移しました。

　受験生の皆さんも「消防士になりたい！」という強い想いを持っていらっしゃると思います。その想いを「どうすれば消防士になれるのか？」「消防士になるために自分に必要なこと・自分に足りないことは何か？」と具体的にイメージし、そこで感じたことはすぐに行動に移してください。また、一度決めたことでも時には再確認し、ずれた行動になっていると感じたらすぐに修正してください。そして、固定観念や思い込みにとらわれずに、客観的に自分自身を見つめ柔軟に行動できる人間になってください。このことは消防士になるまでの間だけでなく、今後消防士として働いていく上でも重要になると私は思います。

　私からのメッセージが、皆さんの原動力になれば幸いです。どうか自分自身に負けないで、頑張ってください！